

# 医薬品研究アシスト

## 椿本興業がロボシステム

椿本興業は新興技術研究所（東京都世田谷区、熊谷行裕社長、03・3417・1801）と共同で、医薬品などの研究開発をアシストするロボットシステム「ラボロボ」を開発した。垂直多関節ロボットのほか、攪拌機やターナーブルなどで構成。研究室で行われる実験のうち、比較的単純な作業を自動化する。システム構築価格は約1000万円から。大学や研究機関、企業の研究室などに提案し、早期の導入実現を目指す。

新興技術研究所がシステムの設計・製造を、椿本興業が販売を担当する。

ロボットのプラスチックの設計・製造を、椿本興業が販売を担当する。

ロボットのプラスチックの設計・製造を、椿本興業が販売を担当する。

ロボットのプラスチックの設計・製造を、椿本興業が販売を担当する。



開発したロボットシステム「ラボロボ」

研究室で行われる実験は単純作業が多いため、アルバイトを採用して作

研究室で行われる実験は単純作業が多いため、アルバイトを採用して作

研究室で行われる実験は単純作業が多いため、アルバイトを採用して作

業することも多い。だが単純作業ゆえアルバイトが長続きせず、正規の研究スタッフが単純作業に従事することも珍しくない。

この単純作業から研究スタッフが解放し、研究効率を向上させるのが「ラボロボ」の狙い。汎用性が高いロボットのため、作業工程の変更などにも柔軟に対応できる。医薬品の開発に使われるロボットは大きかりなクリーン環境下で使用さ

れることが多く、システムとして高額になりがち。通常環境下で単純作業をこなす「ラボロボ」は比較的安価であり、医薬分野でのロボット導入拡大に寄与しそうだ。